

Q3

生ワクチンと不活化ワクチンの違いを教えてください。

A

生ワクチンは、免疫のない人あるいは不十分な人に病原性を弱めたウイルスや細菌等を接種して感染を起こさせるものです。接種後に得られる免疫は強固で、自然感染による強毒な病原体の感染を防ぐことができます。この免疫の強さは自然感染の場合とほぼ同様に長続きします。（なお、自然感染による刺激ブースターが少ないとワクチンによって獲得された免疫は減衰します。）（参照 p64, Q8）

不活化ワクチンは、大量に培養されたウイルスや細菌等のウイルス粒子や細菌の菌体等を集めて精製した後、加熱やホルマリン等の薬剤を用いて処理し、病原体の活力を失わせて不活化したものです。このようなワクチンの中には、特に感染予防に働く抗原をある程度精製したものもあります。百日せきワクチン、インフルエンザHAワクチンなどです。これらのワクチンは以前に用いられていた全菌体百日せきワクチン、全粒子型インフルエンザワクチンに比べると発熱反応等の副反応が軽減されました。